

つながる・つなげる・ 子ども若者応援事業



「木育」を通じた里山コミュニティづくり

千葉県千葉市



事業概要

未就学児親子及び小中学生とその保護者を対象に、自然に親しみながら人と木・森の関係を主体的に考える力をはぐくむことを目的とする。千葉市若葉区のニッセの森を拠点に、「木に親しみ、木から学び、木と共に生きる」という木育の理念に基づき、以下を実施した。①未就学児親子：『サークルタイム』を通し、森遊びや木工、整備活動を通じて森に親しむ。②小中学生：『小中学生リーダー養成プログラム』を通し、森林循環の実践と年少者支援を通じて主体性とリーダー性を育成。③大人：木工や草木染めを通じて自然との関わりを深め、環境保全への意識を醸成。

事業成果

サークルタイムは高い参加率で継続し、親子の関わりとコミュニティが拡大した。小中学生は主体的な森の学びとリーダー性を育成し、保護者も木工等を通じ理解を深めた。世代間の学び合いも促進された。地域連携も進展した。

事業をよく知る関係者の声

- ・各年代に合わせたプログラムで学びを深める日もあれば、異年齢で協力しながら楽しむ日もあり、バランスがとれていたように感じる。(40代サポートスタッフ)
- ・小学生リーダーが知識や技術を伝える姿は保護者の希望となる。異年齢で学び合うコミュニティの価値を実感できた。(30代プログラム講師)

参加者の声

- ・便利なものがないでも、森での経験を通じ、工夫して行動する力が育ちたくましさが増した。(小学生保護者)
- ・森の良さ、楽しさ大切さをみんなに教えて、森について関心を持つ人を増やしたい。(中学生男子)
- ・秋に作った腐葉土を、植樹の時に使うことができ良かった。(小学生男子)
- ・お友だちにも植樹を教えてあげたい。(小学生女子)



玉切りした木を運ぶお父さんチーム (伐倒見学)



製材した板で巣箱の型をとる (巣箱づくり)



バイオネストで作った腐葉土を使って土づくり(土壌改良)



我谷盆づくり (グリーンウッドワーク)

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：0.15ha
 植付本数：32本
 樹勢回復：23本
 下刈面積：0.45ha
 除伐面積：0.06ha
 間伐面積：0.04ha
 森林資源活用：木工作、薪割りほか

参加者数

県内：884人
 県外：70人
 計：954人

樹種

ヤマザクラ、イロハモミジ、アオダモ、エゴノキ、ヤマボウシほか

里山と私たちの暮らしのつながり事業－森の恵みを生活に還元する－

東京都町田市



事業概要

目的は、子どもが将来、身近な自然の恵みを生活に取り入れられるよう、里山資源の循環やカーボンニュートラルの仕組みを体験することである。そのため、全5回の親子自然体験プログラムを実施した。主な内容は、①里山資源を活用した循環型有機農業での野菜づくり体験、②薪や木材など里山資源のエネルギー利用の実感である。また、これらの活動が行えるよう、里山の整備も進めた。

事業成果

地元児童館での広報や口コミにより、毎回10名以上が参加した。恵泉女学園大学の学生も補助に入り、世代間交流が継続。リピーター親子に加え初参加も増え、子どもたちは植物や虫と自由に遊び、最終回には雨の中でも自主的に畑に入り収穫を体験した。大人にとっても、身近な自然の大切さを実感する機会となった。

事業をよく知る関係者の声

- ・参加者の声から活動への期待や満足を感じた。多摩ニュータウンに隣接する場所での自然体験により、地域の自然環境が貴重であることへの理解が深まったと思われる。回を重ねるごとに新たな参加者が増えていることから、親子で自然体験をする場を設けることの重要性を感じる。(大学教員)

参加者の声

- ・自然体験に関心があり近所で参加。2歳児も土遊びに慣れ、楽しく過ごすことができたので次回も参加したい。(親子自然体験①参加者 30代女性)
- ・いろいろな世代の方とふれあう機会がないため、面倒も見てもらいありがたく、うれしい。かまどの火でつくったお味噌汁を子どもがばくばく食べている。お外で食べると格別だ。(親子自然体験③参加者 30代女性)



サトイモ収穫体験



薪割り体験



腐葉土づくり



かまどで味噌汁づくり

実績とりまとめ

作業内容

下刈面積：0.03ha
除伐面積：0.05ha
イベント（親子自然体験プログラム）：5回

参加者数

都内：116人
都外：15人
計：131人

知る和が広がる！ 子供たちと森づくり体験教室

東京都品川区、港区、神奈川県横須賀市、三浦郡葉山町



事業概要

日本の森林を守るためには次世代である子どもたちに森の機能や役割を伝え、森林の重要性を知ってもらう必要がある。根源である自然の重要性を知り、関心を持たなければ、人間はどんどん自然からかけ離れた存在になってしまうことになる。そのため、3つの小学校の子どもたちを対象に、森の講座や植樹体験、調査、植樹前の準備作業などを一緒に行い、森の重要性を伝えた。

事業成果

今年度は3校で森づくりプログラムを実施し、講座・植樹・整備・調査を展開した。G20 Global Land Initiative 関連イベントには、葉山町立葉山小学校の『葉っぱいの森』を使節団に視察いただいた。The Montessori School of Tokyoでは、校庭や自然共生サイト認定地での植樹、草刈り、観察、講座を通じ、児童が自然の豊かさや生物多様性保全の大切さを体験的に学ぶ機会を提供できた。

事業をよく知る関係者の声

- ・湘南国際村のめぐりの森植樹祭後に、葉山小学校で、葉っぱいの森紹介、子どもたちの感想発表が行われ、参加者に大変喜ばれた。宮脇の森をいかに教育につなげるか、ネイチャーラボ構想を練っているところのため、大変良い例として紹介され、海外の方々にも高く評価された。報告はホームページで拡散され、参加者から感謝と称賛のメールが寄せられた。(非営利型一般社団法人Silva相談役)

参加者の声

- ・森は動植物の棲み家であり、生物多様性を守るために重要。小さな行動が集まれば、大きな変化を生むことができる。みんなで力を合わせて森を守りたい。
- ・「葉っぱいの森」が地球環境を良くし、温暖化の勢いを抑えられるなら、世界で取り組んだ方が良いと思った。それができたら、ぼくらがつないでいく未来が少し変わるのではないかなと思った。

(葉山町立葉山小学校児童)



森の講座 (京陽小学校)



潜在自然植生種を植樹 (宮脇メソッドを学ぼう植樹祭)



G20使節団視察で児童からの報告 (葉山小学校)



植樹方法の説明 (The Montessori School of Tokyo)

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：107.7㎡

植付本数：548本

その他：森の講座、植樹祭

参加者数

計：約860人

樹種

潜在自然植生種

佐渡島／能登森のようちえん・がっこうづくり 2024

石川県輪島市



事業概要

能登半島地震と水害により甚大な被害を受けた、能登の森のようちえん・学校のハード・ソフトをつくるのが目的である。能登で被災した当団体連携団体の被害は甚大で、早急な支援を必要としているため、能登での活動を中心とし、輪島市町野町の流木・瓦礫の片づけ、泥かきをして、森のようちえんの活動をする予定の場所や、被災した診療所敷地、土地、森、山、私道を重機やダンプなど使用し、ボランティアの手作業で復旧した。

事業成果

- ・他の災害ボランティア団体との連携と協働と輪島市の災害支援により、私たちだけではできない復旧や支援を実現できた。

事業をよく知る関係者の声

- ・自然災害は不安や混乱、悲劇を発生させるだけのものなのだろうか。町野唯一の医師が見つめた災害と復興。そこには自然と共存する人間本来の力強い姿があった。足るを知り、自然の恵みを正しく享受し、生業のほとんどを自ら行う「百姓」がまさにその姿と重なった。過去未来の災害をも恩恵とし、奥能登の真ん中に位置する町野から現在社会が掲げる豊かさの意味にメスを入れる。(町野唯一の医師 院長)

参加者の声

- ・技術や能力を活かし、関わる人全てが協働できた。
- ・みんなが活躍できる場を作れた。
- ・いざという時に助け合えるコミュニティの醸成が起きた。
(ボランティア)



被災地でのボランティア活動の様子



小型車両系建設機械特別教育で町野の被災者20名が受講



重機を使用して流木の片づけ



手作業で泥の処理

実績とりまとめ

作業内容

流木片付け本数：80本
泥瓦礫片付け面積：6.5ha

参加者数

県内： 605人
県外： 782人
計： 1,387人

わかブナガーデン

新潟県十日町市



事業概要

対象地は、かつてホテルが乱舞した場所であるが、近年の圃場整備等により激減した。これを再生し、子どもたちが自然とふれあえる場とすることを目的に周辺環境の整備を行った。整備や活動内容は、以下のとおり。①植樹・植栽、②ビオトープの整備、③水路 (U字溝) 整備、④ツリーハウス造り、⑤ステージの設置。

事業成果

これまでは、二六公園保存会として主に二六公園内の整備活動に取り組んできたが、本助成により魅力ある施設へと整備することができた。これにより、小中学生をはじめ地域住民に親しまれる里山公園・憩いの場となった。さら

に、本事業の間伐材を利用して、千手小学校の4年生が制作した鳴子が学習発表会で披露された。今後も、子どもたちが気軽に自然とふれあえる場所として活用し、環境保全などの活動に取り組んでいきたい。

参加者の声

- ・ 荒廃していた山林を除間伐整地してブナを植樹したことに感動と達成感を感じた。(30代女性)
- ・ 傾斜地にヤマユリやユキワリソウをうまく植えられて楽しかった。(小学生女子)
- ・ 植樹の後、木登りが楽しかった。(小学生男子)
- ・ 耕作放置された畑を子どもたちと整備することで里山の再生が進むと確信できた。(60代参加男性)



ブナやヤマツツジほかを植樹



ビオトープ



ツリーハウス



完成したステージで「わかブナ祭り」

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：0.5ha
 植付本数：40本
 その他：ヤマユリ、ユキワリソウを植栽

参加者数

県内：86人
 計：86人

樹種

ブナ、ヤマモミジ

武田の里山再生事業

山梨県甲府市



事業概要

人の手が入らずナラ類が密生・大径化し、ナラ枯れ被害や獣害が深刻化した里山の再生を目的に、緩衝帯を整備し、人と獣が共生できる持続可能な社会の回復を目指した。主な活動は以下のとおり。①コナラ林を間伐し、カエデを樹下植栽、②獣害防止柵設置、③間伐材を木工作に活用、④県内緑の少年隊や幼稚園児による植栽と、林業事業者やネイチャーガイド等の専門家による指導森林環境学習。

事業成果

今年度、山梨県や甲府市役所管理の住宅街近くの里山で再生活動を実施するため新たに協定を締結した。トレイルカメラでシカやイノシシの侵入状況を把握し、ケモノ道を分断する形で活動エリアを設定。コナラ林の間伐とカエデ

植栽を行い、住宅街への侵入防止も兼ねた獣害防止柵を設置した。また、地元の子どもたちはネイチャーガイドの指導で里山遊びを体験し、里山で遊ぶことの楽しさを学んだ。

事業をよく知る関係者の声

- ・非常に興味深い活動。大学の学生が専門家等と協同で地域課題に取り組む活動があり、その枠組みを利用して本活動と連携していきたい。また、大学が主催している県内の小中学生で構成する「ジュニアドクター」の活動とも連携していきたい。(50代、地域内に所在する大学教授)

参加者の声

- ・森でみんなで遊べて良かった。(小学4年生)
- ・改めてSDGsの大切さに気づいた。自分ができるとはやろうと思った。小さい子も大きい子もみんなで森で遊べて楽しかった。(中学1年生)
- ・木を植えるのが初めてだったからとても楽しかった。(小学2年生)
- ・クギを打つのが難しかった。(小学3年生)
- ・木に関係することが知れて良かった。(小学4年生)
- ・SDGsに貢献したい。(小学3年生)



獣害防止柵が設置されたエリアでの植樹



カエデを植樹



間伐材を製材して木工作に使用



ホダ木に駒を打ち込む

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：0.125ha
 植付本数：60本
 下刈面積：0.125ha
 間伐面積：0.125ha
 獣害防止柵設置：12回
 生態調査：18回
 森林資源活用
 (薪づくりほか)：29回

参加者数

県内：180人
 計：180人

樹種

カエデ

遊びと五感を育む「里山園庭」プロジェクト

岐阜県美濃加茂市



事業概要

身近に森がない保育園の園児に自由な遊びや五感体験を提供するため、持続可能な社会のデザイン手法として知られるパーマカルチャーの理念をもとに、緑化だけでなく五感を使って遊ぶことができる園庭をスタッフや保護者、子どもたちと共に手づくりしていく。今回は、高さ約70cmのレイズドベッドを親子で班ごとに手づくりし、年長は枠づくり、年中は土づくり、年少は苗や種まきを行い、その後も定期的にメンテナンスを実施した。

事業成果

親子行事で作ったレイズドベッドの野菜は順調に育ち、子どもたちは水やりや観察、間引き、収穫を楽しんだ。里山や家庭の野菜が成長する様子を自分の手で観察し、収穫して食べる体験は将来にわたる貴重な学びとなった。親子でのDIY作業は、ものを作る楽しさや子どもが過ごす環境を手づくりする大切さに気づく意義ある機会となった。

事業をよく知る関係者の声

- ・親子やスタッフが一緒になって園庭づくりをすることで、親も子どもも保育士も全てのことが自分ごとになっていく。また手づくりの園庭では、子どもがどんな動きをするのか、退屈していないか、危険ではないかなど、子どもの姿を丁寧にとらえることにつながり、それが質の高い保育につながる。(岐阜聖徳学園大学教授)

参加者の声

- ・電動工具は最初は怖かったが、慣れてくると作ることが楽しくなってきた。(保護者)
- ・子どもたちも楽しそうだったし、私も楽しかった。(保護者)
- ・遊びも作業も一緒。(保護者)
- ・皆で協力して作業することは、とても有意義であった。お母さんたちはとても楽しんでいた。(保護者)



レイズドベッドの枠づくり(親子で里山園庭づくり)



レイズドベッドの土づくり(親子で里山園庭づくり)



野菜の種まきや苗の植え付け(親子で里山園庭づくり)



排水溝を掘って石を敷く作業(親子メンテナンスDAY)

実績とりまとめ

作業内容

植付本数：16本
その他：野菜やハーブなどを植栽

参加者数

県内：71人
計：71人

樹種

ヤマモモ、クリ、グミ、ザクロ、フェイジョアほか

つくろう！こどもの森～おいだいらの里山から～

静岡県浜松市



事業概要

地域の耕作放棄地で森づくり整備を行い、未就学児親子を対象とした野遊びさんぽの会や地域の自然体験活動の場として活用できるフィールドを整備し、子どもたちが自然の中で遊びながら学べる環境の創出を目的とする。活動は、①藪払い、伐採木処理、散歩道整備、下草刈り、水脈づくりによる土中環境の改善、②地域の親子と自然観察や水脈づくりを行い、森づくりを実践的に学習（専門家指導）。

事業成果

危険だったフィールドが整備により明るく安全に利用できる環境となった。地域住民を含む参加を通じて関心が広がるとともに、自然環境や森づくりを実践的に学ぶことができた。未就学児親子対象の野遊びさんぽの会だけでなく、対象年齢の広い『はまきたプレーパーク』活動でも場の活用を始めることができ、幅広い世代が自然の中で体験的に学べる・活動できる場として活用が進んだ。

事業をよく知る関係者の声

- ・自然環境観察での講師の話が大変勉強になり、普段から周りの自然を観察する時の視点が変わった。(60代男性)
- ・豊かな自然環境の中で遊んだり学んだりすることができる場ができ、地域としてもいろいろな可能性が広がりそうだ。(40代男性)
- ・今後の森づくりでの変化が楽しみ。(30代女性)

参加者の声

- ・鬱蒼としていた整備前と比べて驚くほど心地の良い場になり、人が手をかければこんな場ができるのだと驚いた。(参加者 60代男性)
- ・継続して整備に参加できたことで、変化の様子を体感できて良かった。自然環境観察の話が面白かった。(参加者 30代女性)
- ・冬は茶色だった場所が緑いっぱいになっている。遊べる場所になってうれしい。(小学生男子)



倒木処理



散歩道の整備



掘った穴に有機物を入れる(水脈づくりワークショップ)



親子でチップ堆肥まき(水脈づくりワークショップ)

実績とりまとめ

作業内容

下刈面積：0.15ha
 除伐面積：0.15ha
 散歩道整備：300m
 その他：チップ・堆肥づくり、
 施肥、水脈づくりほか

参加者数

県内：168人
 県外： 7人
 計：175人

野いちご園庭緑化とみんなの森の遊び場作り

静岡県掛川市



事業概要

多くの子どもたちが豊かに育つ持続可能な里山づくりを目指している。主な活動は以下のとおり。①コンクリート撤去・土入れ・築山造成で安全園庭化、植物を絡ませ安全に配慮した柵を設置、②敷地内の田んぼを、畑、果樹、駐車スペースに整備、植樹とピワの葉エキスを作るワークショップを実施。③荒廃した竹林、茶畑の整備、裏山に作る遊具をみんなで考え、みんなで作るイベントを実施。

事業成果

地元企業や住民の協力を得て、地域林は、子どもたちが



古民家前園庭を整備



地域林の整備



「みんなでつくろう!森の遊び場づくり」のイベントで遊具づくり



「果樹を植えよう!」イベントで7種類の果樹を植樹

豊かに遊べる森へと生まれ変わった。園庭は安全性を高めて土でたくさん遊べる場所となり、ガーデンエリアでは食育も実施可能となった。また、各種イベントを通して、掛川市入山瀬にこのようなすばらしい自然環境があることや、子どもがのびのびと遊び育ち、大人も心地良く過ごせる空間であることを広く体験してもらうことができた。

事業をよく知る関係者の声

- ・1年前と比べ、見違えるような場所となった。すばらしい自然教育環境だ。(保育事業・在園児保護者)
- ・穴を掘ったり、物を埋めたり、溝を作ったり、転がしたり、すべったり、板を渡して橋を作ったり、子どもたちの遊びが無限に広がる築山ができた。(保育事業・保育スタッフ)

参加者の声

- ・こんなに遊べるすてきな森があるなんて知らなかった。もっと子どもと遊びに来たい。(イベント参加者・保護者)
- ・秘密基地づくりや木のブランコなど、子どもの頃の憧れを思い出し、大人もワクワクする遊び場づくりに参加することができた。(イベント参加者・保護者)
- ・木にペンキを塗るのが楽しかった。(イベント参加者・子ども)

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：0.05ha
 植付本数：15本
 下刈面積：1.0ha
 除伐面積：0.1ha
 森林資源活用：竹資材でブランコ・小屋づくり
 遊歩道整備：100 m

参加者数

県内：195人
 県外：5人
 計：200人

樹種

サクラ、ピワ、グミ、ブラックチェリー、レモンほか

園庭と森の保全活動と自然体験

広島県東広島市



事業概要

目的は、園庭と周囲の森を、子どもたちが安心して自然とふれあいながら過ごせる環境へと整備し、持続可能な自然体験の場として保全・活用していくことである。主な活動は、園庭及び周囲の森の整備作業（下草刈り、倒木処理）、植樹、水脈整備、獣害柵の設置。また、森の木を活用したグリーンウッドワークのワークショップも開催し、自然との関わりを体験する機会を提供。

事業成果

子どもたちが自然の中で遊び・学べる安全で豊かな空間を整備した。また、保護者や地域住民が環境保全活動に参加する機会が増え、地域のつながりが深まった。さらに、森の資源を生かした木工体験を通じて、自然と人との関わり

を実感する機会が創出された。

事業をよく知る関係者の声

- ・今回の整備によって、子どもたちが安心して自然の中で遊べる環境が整ってきたことを感じた。水脈整備でぬかるみが減り、獣害柵の設置もあって、安全面でとても助かっている。一方で、草刈りや枯れ枝の処理など自然との関わりには手間も必要で、継続には人手や支援が欠かせないと感じた。木工体験なども大人にとって良い学びの機会となり、今後はもっと多くの人に関われる活動に広がっていくことを期待している。（保護者）

参加者の声

- ・初めての参加だったが、森の中で体を動かしたり、木を使った物づくりがとても新鮮だった。木工体験も道具を使う楽しさがあり、大人も夢中になれた。身近な自然の恵みを生かすことの大切さを実感できる機会になった。今後もぜひ続けてほしい。（50代ワークショップ参加者）



親子で植樹体験



下草刈り



柵の設置



足踏みろくろワークショップ

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：0.1ha
 植付本数：26本
 樹勢回復：15本
 下刈面積：1.0ha
 除伐面積：1.0ha
 その他：園庭整備、環境改善、クラフト体験ほか

参加者数

県内：53人
 県外：1人
 計：54人

樹種

アジサイ、クロモジ、ヤマブドウ、ブルーベリー、イチヂクほか

山に親しむふれあい体験型公園の開拓事業

福岡県朝倉市



事業概要

目的は、森の中での遊びを通じて自然の役割や魅力を体験し、地域に親しまれる「ふれあい体験型公園」を創出することである。主な活動は、「森林ふれあい体験型公園」を子どもたちの自然体験フィールドとして開拓するプログラムを実施。5年計画の1年目として、子どもたちの好奇心を最大限に生かせる森で楽しく学べる7回のプログラムを実施。①森と仲良くなろう（危険個所の確認、道具の使い方、ルールづくり）、②林道フィールドワーク、③森林整備体験、④皮むき間伐体験、⑤間伐材の木工体験、⑥丸太ベンチづくり（2回）。

事業成果

1年目であるため、安全に楽しく森に興味、関心を持ってもらうこと目的とし、無理のない活動内容で進めた。

事業をよく知る関係者の声

- ・客観的に日頃の学校生活では経験できない自然体験と、専門講師による山についての学びは好奇心旺盛な子どもたちの成長に役立つと思う。課題は、自然に意識を向ける親子にどれだけ関わってもらえるか。安全面を考え対象年齢の再検討が必要である。可能性として、自然環境への興味関心を持つ子どもたちが増えてくれることを願う。（林業講師の声）

参加者の声

- ・学校では学べないことを体験できた。週末はゲームばかりだったが時間を忘れて体を動かす時間ができて良かった。
- ・虫や植物に詳しくなってきたうれしい。自然の大切さ、危険を楽しく学べて良い機会をもらった。また参加したい。
- ・九州北部豪雨を経験した子どもたちだから意識高く自然環境に関心を持ってくれるとうれしい。

（参加者の保護者）



森と仲良くなろう（危険個所の確認、道具の使い方、ルールづくり）



「寺内ダムの森」で森に親み整備体験



伐採した木をサイクルスタンドキットにし、子どもたちと組み立て



丸太のベンチづくりで丸太の皮むき

実績とりまとめ

作業内容

森林資源活用（サイクルスタンド・丸太のベンチ）：3回
その他：養成講座、野外活動ほか

参加者数

県内：349人
計：349人

のべおか風と土の森整備保全及び自然活動

宮崎県延岡市



事業概要

目的は、かつて地域住民の農道であった道路を復旧し、自然環境を保全するとともに憩いの遊歩道として活用することである。また、弊団体の活動を通じて、自然の大切さや機能、環境保全の労働を体験し、森への畏敬を知る機会とする。具体的にはネイチャーゲームや小川の生物観察などを通した自然体験の場とし、主な活動は草本やタケ、雑木の伐採・整地による遊歩道整備と駐車場簡易整備である。

事業成果

人が散策できる状態になった。内外に告知をし、開催イベントにおいても遊歩道ウォーキングを実施し、約30名が自然の小径を歩き楽しんだ。また、ネイチャーゲームスタッフ向け学習会では、このコースを使って体験活動を実施

することができ、魅力的な自然学習の場となった。

事業をよく知る関係者の声

- ・歩道が使用されなくなり、かなりの時間が経過していたため、雑木林の繁茂状態がひどく、人が歩けるようになるまでには工数も時間も必要であったが、参加者も主催側も粘り強く作業を継続して第1段階としては、十分な成果と考える。ただ、歩道土砂の流出を防ぐ処置はそれなりの労力と時間を要するものであり、計画的な準備が必要と思われる。(土木工事・造園工事会社代表)

参加者の声

- ・背の高い植物やタケが生い茂っていて、本当に道が切り拓けるのかと最初思ったが、少しずつ進む様子を見て感じられて楽しかった。(小学6年生男子)
- ・遊歩道に沿って流れる谷川のせせらぎが垣間見えるようになり、自然を感じられる癒しの空間になっていったのがうれしかった。(40代男性)



クリの植樹作業を終えて記念撮影



森林整備



整備した森林でネイチャーゲーム



看板を設置(風土の森)

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：0.1ha
 植付本数：5本
 下刈面積：0.6ha
 除伐面積：0.05ha
 間伐面積：0.1ha
 森林資源活用：7本
 歩道整地：0.85ha
 その他：標識案内看板設置、森林学習

参加者数

県内：175人
 県外：21人
 計：196人

樹種

クリ

